

行雲流水

No. 1 1 1 令和3年10月18日発行

校内に歌声が美しく響く季節

校長 寒河江 正人

校内に「生徒諸君の歌声」が美しく響き渡る。
ああ、いい季節だなあ。
じっと耳を澄ます。

15日（金）の夕方、帰宅しようと職員玄関に向かった。
階段下では、高橋利緒さんがホワイトボードに向かっている。
「いつも、ごろうさま。」と声をかける。
今日のダジャレは、何かな？

そのかたわらで、数人の女子が合唱曲を口ずさんでいる。
立ち止まって、耳をかたむけた。
曲は、「親知らず 子知らず」。
しだいに、しだいに、声も動きも、豊かに豊かに大きくなっていく。
歌声がそろい、そして、フィナーレを迎えた。
思わず拍手をしてしまった。
みんないい笑顔だ。

こういう日常の生徒諸君の姿が尊い。
素敵な生徒の姿、いい学校の姿が、ここにある。

なかなか声が出にくい1年生。
少しずつ声が育つ発展途上にある2年生。
そして、ようやく大人の声に近づいてきた3年生。
それぞれの学年の時期には、声が育つ発達段階・発達課題がある。みな同じではない。

決して無茶をせず、それぞれの年齢期に応じて、歌声を響かせれば、それでよい。
ただし、「学級の子どもの気持ちに向かう方向」を一つにしよう。
そして、「ハーモニーを奏でる楽しさ」をみんなで味わい、お互いを称えよう。

さあ、あと2週間。歌声は、まだまだ育つ。ハーモニーは、もっともっと美しくなるぞ！